

## 令和2年第18回玉野市教育委員会 会議録

I 期 日： 令和2年9月24日（木） 於：第3委員会室

II 開会時間： 14時00分

閉会時間： 15時40分

III 出席委員： 教育長 妹尾 均

委 員 太宰 実千代

委 員 加藤 正枝

委 員 野田 洋二

IV 欠席委員： 教育長職務代理者 妹尾 恵美

V 出席者氏名： 教 育 次 長 藤原 敬一

教育総務課長 山内 祐樹

学校教育課長 住田 義広

就学前教育課長 牧野 真哉

社会教育課長 大塚 英一

（書 記） 清山 智保

VI 会議内容：

### 1. 開 会

### 2. 前回会議録の承認

令和2年第17回教育委員会会議（R2.8.25）の議決事項等について

教育長報告：なし

議 事：議案第28号玉野市教育委員会会議規則の一部を改正する規則につ  
いて ほか1件

協 議：学校における新型コロナウイルス感染症への対応について

そ の 他：令和2年度9月補正予算の概要について ほか5件

（承認）

(野田委員) 前回会議後に、県や各市町村で感染者の発表に関する対応が、変わったところはあるか。

(学校教育課長) 特に変更ない。県教育委員会は基本的には各市の方針に任せるということである。各市とも教育委員会だけの意見ではなく市長の意向もあるように聞いている。

### 3. 教育長の報告 令和2年9月定例会市議会一般質問項目について

(野田委員) 藤原議員のオール英語の取り組みについてはどんな内容のことか。

(就学前教育課長) 日本語を使わず英語だけを使って1日過ごす教育をしている私立幼稚園が総社にあり、こういう教育を玉野市でもやってみてはどうかという提案である。旧後閑保育園や旧玉幼稚園、旧玉原幼稚園が活用できないかということで事業者が視察に来たことがあるが、その後特に動きはない。

### 4. 議 事 なし

### 5. 協 議

#### (1) 令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書(初稿)について

(各課長) 資料により説明  
本日出た意見を反映し、有識者の意見書を加えた第3稿を再度ご確認いただき、12月議会で説明する予定である。

(野田委員) (P17)「病児保育事業の実施」の課題の中で、「利便性の向上を目指す」とあるが、意味がわかりにくいように思う。

(就学前教育課長) もう少しわかりやすい表現に改める。

(野田委員) (P19) 幼稚園型の利用者が少ない理由についてはどう分析しているか。

(就学前教育課長) 幼稚園は在園児のみの利用となる。年度による変動もあるが、兄弟姉妹の在籍している小学校の行事の関係での利用が多い。小学校の行事がたまたま少ないと利用が減ってくる。詳細な分析まではできていない。

- (野田委員) (P22、P23) それぞれの事業で「人員の増加が必要である。」という課題があるが、何か対応しているのか。
- (学校教育課長) 令和2年度から適応指導教室の指導員を1名、教育支援室の心理相談員を1名増加した。
- (野田委員) (P26) 「国や県の実施基準を満たさない35人学級対象学級が市内になくなる」とあるが、どういうことか。
- (学校教育課長) 国の制度では小1を35人学級、岡山県は独自制度で小2を35人学級としている。小3から小6については、1学年の学級数が3学級以上という条件のもと県の加配がある。本市の今後の小学校の児童数の推移を見ると、令和3年度以降、35人学級の実施対象となる学校は荘内小学校だけとなり、国や県の制度で対応できる見込みである。市独自での35人学級を実施する必要がなくなる想定である。
- (野田委員) 中学校も35人学級にするとどうなるか。
- (学校教育課長) 今年度の状況だけを見ると、国や県の制度で対応できていない学校は日比中の3年生だけであった。中学校は教科担任制であり、1学級増やすと各教科の授業時間数が増加するため、小学校のように1学級1人増だけではない可能性があるため難しいと考えている。
- (妹尾教育長) 平成30年度から評価が変わった事業はあるか。
- (各課長) 特にはない。新規事業の追加での変動はある。
- (妹尾教育長) (P12) 地域文化の振興の項目では全ての事業でAがついている。人数や回数が評価の一つの基準になっているかと思うが、そのあたりが評価に値するということか。
- (社会教育課長) 基本的にイベントや補助事業であるため、盛会に終わったイベントということでAという評価はつけている。
- (太宰委員) BやCがつくことがあるのか。一般的な考えとして、AとBしかないということには少し違和感を感じる。頑張ってきた成果としてこのような評価となったというのは理解しているが。
- (加藤委員) 太宰委員の意見ももっともであるが、CやDがつくということは取り組み方が悪いということでもあるので、ここにCやDがあると言うのは教育委員会としてどうなっているのかと思う。
- (太宰委員) AやBが望ましいことであるが、事業に対し真摯に取り組み、厳しい視点で評価するのであればCという評価もあり得るのではないかと感じた。

## (2) G I G Aスクール構想に係るガイドブック（案）について

(学校教育課長) 資料により説明

(野田委員) 今年度、活用している学校を視察することは出来ないのか。

(教育総務課長) 端末整備は年内完了が目標であり、校内ネットワークの整備の完了は年度末であるため、実際に活用している授業が視察出来るのは次年度からとなる。

(妹尾教育長) 小学校のオンライン英会話の授業は視察することができるか。

(学校教育課長) それは可能である。

(野田委員) このガイドブックでこんな授業ができるということが大体わかるが、教員はかなり慣れないと授業で活用することが難しいのではないか。

(学校教育課長) 県教育委員会は、令和5年度の本格実施を目指して、研修を積み重ねていくということである。玉野市では、次年度から色々取り組んでみて慣れていってもらおう予定である。

(野田委員) I C Tの活用によって、端末に入力していることが勉強している気分になり、人の話を聞いてノートにまとめるような能力が低下するのではないかと懸念している。

(学校教育課長) これからの学校教育は、今までのような詰め込み式の答えの出てくる勉強から答えのない勉強に変わってくる。これから必要となってくるのは、集めた情報やみんなで答えを出し合ったことについて、それを頭の中で整理してまとめ上げたり、人に説明する資料を作り上げたりする力が必要となってくる。頭の中を整理して人に説明するような力は意識して教育していく必要がある。授業の中では、その部分を意識しながら活用していく必要はある。

## 6. その他

### (1) 教育委員による学校等視察について

(教育総務課長) 今年度、延期していた視察をどうするか、ご相談したい。今から実施するとすれば、11月に2回、2月に1～2回実施し、新任校長・園長のいる学校園に絞った形であれば、実施可能である。受け入れる学校園も外部からの訪問に対し不安に思う部分もあると思われるので、ご意見を聞かせてほしい。

(野田委員) 私は是非行きたいと思う。

(加藤委員) 私は正直わからない。コロナ禍の中で、先生も保護者もセンシ

タイプになっていると思うため、そこへ訪問するというのはどうなのかと思う反面、直接お会いしてお話しするというのもした方が良くと思う。どうなのか悩むところである。

(太宰委員) 初めてなので訪問したいと思っはいるが、学校が感染症対策で神経を尖らせている中で、今行く必要があるのかという思いもある。

(教育総務課長) 対象の10校に意向を確認した上で、受け入れ可能であれば、訪問するという事によいか。実施するのであれば、最少人数で訪問したいと思う。

(各委員) それでよい。

(妹尾教育長) 対象の学校と調整して次回報告をする。

## (2) 令和2年10月／11月 月間行事予定について

(教育総務課長) 資料により説明

次回、教育委員会定例会は令和2年11月4日(水)15:30から開催するので参集願います。以上で、第18回教育委員会を閉会します。

会議録調製者 書記 清山 智保

会議録署名委員 教育長 妹尾 均

〃 教育委員 野田 洋二